

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0801027
	②		福祉	H0403037
	③		経営	H0201025
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	馬込保育園			
事業所連絡先	〒	143-0027		
	所在地	東京都大田区中馬込3丁目25番2号		
	TEL	03-3772-6923		
事業所代表者氏名	大久 朋希			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 11月 6日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 11月 6日			
訪問調査日	2023年 11月 13日			
評価合議日	2023年 11月 13日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 22日

事業者代表者氏名

大久 朋希

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none">1) 子どもの安全を守り一人ひとりの思いを受けとめて安心して過ごせる保育を目指す。2) 保護者の置かれた状況や意向を受け止め、保護者に寄り添い信頼関係を築く。3) 職員が意欲的に保育にあたり、向上心を持って自己研鑽に努める。4) 地域住民と良好な関係を築き地域の保育園として存在しながら地域の子育て支援に取り組む。5) 拠点園として近隣の保育園等と交流を持ちながらお互いの保育の質の向上を目指す。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもに肯定的に関わり、人権を尊重できる職員。・保育の質の向上を目指し自己研鑽を重ね、職員同士が同じ思いで保育していく。・保護者の気持ちに寄り添い、共に育てる姿勢を持っていく。 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの命を守る使命感を持ち安全面への配慮や、家庭状況に気になることがあった際には報告して園全体で情報を共有できる職員・在園児だけでなく地域の子育て世帯への育児支援も意識して大田区の子どものために出来る事を考える職員・保育士という専門性を高める為に自己研鑽を積みながら保育の質の向上を目指す職員。

調査対象

2023年7月25日現在の施設の利用者(保護者) 94世帯(利用者総数 113名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担当が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

113

94

94

58

61.7

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(98%、57人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。

問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(98%、57人)

問2. 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか

問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか

問11. お子さんがけがをしたり、体調が悪くなるときの、職員の対応は信頼できますか
(各々 97%、56人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	57	1	0	0
<p>保育園で遊ぶ事全般に息子はとても楽しんでます。お友だちと外で会ってもとても楽しそうなりアクションを見せてくれ、社会性の発達に高く貢献いただいていると感じます。 栄養バランスの取れた美味しい給食、園庭などでの活動による体の発達、長所を伸ばしながらの集団生活での心の発達に大変役立っています。 などの意見があった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	56	2	0	0
<p>いつも園で作ったり描いたりしたものを持ち帰らせていただきますが、非常に質の高い制作物です。息子はいつも嬉しそうに見せてくれます。 まだ園での様子を話して教えてくれることは少ないですが、たまに園で習ったであろうこと家でも1人でやっていたり、話していたりするので、楽しんでいると思われます。 などの意見があった。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	50	8	0	0
<p>ライブキッチンをやって下さっているのも食べる意欲にも繋がりとってもいいと思います。 特に0歳クラスの際は離乳食の悩みが多く、先生にはきめ細やかに、大変お世話になりました。今も献立や食べ方は参考にさせていただいています。 いつもおかわりをしているとのことで、我が子にはよく合っていると思います。 などの意見があった。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	50	8	0	0
<p>季節を感じる行事を用意していただいていると思います。 外遊びでたくさん自然と触れられています。園庭で虫を探したり、園の中で植物を育てたりと、身近な自然とは触れ合う機会は確保されていると思います。ここでの「社会」が何を指しているかは分かりかねますが、お散歩に行く時の道路でのルールを守ることなどの機会は確保されていると思います。 などの意見があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	44	12	1	1
<p>仕事ではなかったのですが体調が悪い時に子供を預かってくれて助かりました。 いつも理由をきいたり怒られることもなく対応いただき、焦っている状況でとても助かっています。 連絡すれば毎回対応してくださっています。 などの意見があった。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	46	10	2	0
<p>最新というわけではありませんが、必要最低限は取られていると思います。 安全にもいつもすごく気を配っている感じがします。 などの意見があった。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	44	11	3	0
<p>我が家は決まった平日に休みがあるので、(たまたまかもしれませんが)特にその曜日に保護者会などがあるので助かっています。 親の都合をよく聞いてくださいます。 などの意見があった。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	51	6	1	0
<p>担当の先生は、子どもの気持ちを考えて接してくださっていると思います。ありがとうございます。 多くの先生がとても熱心で、親に寄り添ってくださって、子どもにもたくさんの愛情を注いでくださっていて有り難く感じております。一方、一部の先生は、単調な対応で、寄り添う姿勢というよりは、自分の都合で話しているように感じます。様々な経験を重ねているのですから、若い先生方の手本となるような素晴らしい対応をして欲しいです。※今年度に限らず、以前から感じていました。 などの意見があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	56	2	0	0
<p>古い建物ですが、よく掃除されていると思います。 いつも掃除の方が掃除して下さっており綺麗です。 建物の古さは致し方ないですが、整理整頓され、清潔な状態だと思います。 などの意見があった。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	54	4	0	0
<p>いつも丁寧かつ温かく接していただき大変感謝しています。 親にも子にも丁寧・適切な言葉遣いですし、服装も子供が興味を持つよう工夫していると感じます。 電話の応対も気持ちよく、素晴らしいといつも思っています。 などの意見があった。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	56	2	0	0
<p>応急処置もしていただき、きちんと説明もしていただくので、信頼しています。 こちらが全く気にしないようなことも丁寧にお伝え下さいます。 小さな怪我や体調の変化を逐一報告して下さり、子どものことを第一に考えているのが伝わります。 などの意見があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	46	10	0	2
<p>まだ1歳クラスのためほとんどトラブルがなく。ただ他のお子さん由来でケガをした際はきちんと説明いただけるので信頼しています。 子供たち同士で話し合えたり、気持ちを聞いたり、ときには代弁してあげたりと寄り添った環境をつくっている。 双方の話聞いて、それぞれに寄り添った対応してくれているようすし、説明もしていただけるので信頼しています。 などの意見があった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	53	5	0	0
<p>私の強い我が子ですが、気持ちに寄り添ってくれていると感じます。 子供が先生大好きだとよく言っていて、泣いてるときにすぐに抱きしめてもらいにいっていることが、大切にされ安心できる関係性ができていることをよく現していると感じます。 どの先生方も子どもの気持ちに寄り添って対応してくださっています。 などの意見があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	51	7	0	0
<p>子の月齢が低く、まだそういった場面に遭遇したことはありません。 特にそのような事項が今のところありません。 プライバシーもすぐ配慮してくださっています。 などの意見があった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	52	5	0	1
<p>たくさんのお子さんをお世話しているはずなのに、こんなことありましたよーとお話してくれてありがとうございます。 2歳児クラスまでの連絡帳は、日々の生活の様子を丁寧に記載していただき、大変よく分かりました。一方、日常でももっと写真や動画を活用してもらえたらな、と願います。 いつも丁寧に説明してくださっています。保護者会では写真付きで日々の様子の報告もあります。 などの意見があった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	52	4	1	1
<p>特に不満はありませんが、気軽に話ができる環境を作ってくださいなので、対応してもらえるものと思っています。 といった意見があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	38	12	5	3
<p>聞いたことはありません。ただそのことを仮に園長などが丁寧に伝えてくれたとしても、逆に丸投げ感か感じないと思う。むしろ何かあれば担任や園長が責任持って対応すると言っていた。自分達が責任持って対応する姿勢が伝わる。 とりあえず先生に何でも相談していますが、専門機関や窓口があるときはそちらも紹介して下さいます。 などの意見があった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	園が目指す目標や方針は、職員や保護者の理解を得る取り組みがある 園が目指している保育理念や基本方針、園の目標は重要事項説明書や職員の手引き、園マニュアル、全体的な計画等に記載され、職員に配付されている。玄関や各クラスには園目標等が掲示され職員に周知する取り組みがある。園マニュアルは年度初めの職員会議で読み合わせを行っている。保護者に対しては入園オリエンテーションで重要事項説明書等を基に保育方針や園目標等を説明し、理解を得よう努めている。	
	園長は「園長の業務内容」の中の自らの役割と責任を明示し、園をリードしている 園長は職員会議等で職員に役割分担表や「園長の業務内容」の中の自らの役割と責任を明示している。また、区立園長会や地区別園長会の情報を、リーダー会や職員会議でその内容を職員に伝え、職員に取り組むべき方向性や事項を提示している。園長の相談しやすい環境作りやコミュニケーションを図る姿勢に、職員調査でも園長の雰囲気と人柄で温かい職場になっているという声や、職員同士仲が良く、チームワークが取れているという声が多く、リーダーシップを発揮していることをうかがわせる。	
	重要な案件等は先ずリーダー会で話し合い決定した内容を職員会議で最終決定をしている 重要な案件や検討事項は先ずリーダー会で話し合い、決定した内容を職員会議で報告し職員は決定経緯を周知して最終決定をしている。早急な検討を要する事案は、臨時の運営会議やリーダー会を招集し決定したうえで園長が周知している。保護者に対して重要事項の変更があった場合はお知らせ文や園内掲示等で周知している。クラス目標はクラスごとに保護者会で説明するため統一感が薄く、園長は毎月の保育のねらいを統一した形式で保護者に伝えたいと思っている。	

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
<p>保護者や職員の意向を様々な手段で把握し、課題を抽出してリーダー会等で検討している</p> <p>保護者の意向は、行事後アンケートや園長や担任が直接感想を聞いたり、意見箱を設置するなどして収集している。また、保護者会や保育参観・個人面談等で要望や意向を把握している。検討すべきものは園長や副園長、リーダー会で検討し、結果を個人面談等でフィードバックしている。職員の意向は職員面談時の面談シートや職員アンケートなどからニーズを把握して、必要な場合は園マニュアルを職員会議やリーダー会で確認し、検討している。園マニュアルの修正と見直しは事務所で行うことが多い。</p> <p>地域や福祉事業全体の情報は各園長会や地域会議、区の情報等で把握している</p> <p>地域の福祉の現状は園長が区立園長会や地区別園長会等に参加し、区の園長会では行政の情報、地区別園長会では行事や園児等の身近な情報を収集し把握している。また、地域会議を開催して地域保育施設との情報交換を行ったり課題やニーズを把握して拠点園としての役割を果たしている。福祉事業全体の動向は区報などの情報により把握したり、園長と民生委員との懇談会に参加して課題やニーズを把握している。また、近隣の小学校の校長が講師となり、就学までの育て方について園で話す予定になっている。</p> <p>次年度には重点課題を達成する取り組みを明記した事業計画書の作成が期待される</p> <p>園で策定した令和3年度～6年度までの中長期計画があり、それを基に今年度の「全体的な計画」と単年度計画が策定されている。中長期計画には園の保育理念と保育目標が明記されており、保育の質の向上や危機管理、子育て支援、外部交流等の重点項目ごとの達成すべき目標が明確である。ただ、今年度の事業計画書および前年度事業計画に対する事業報告書が作成されておらず、課題が何だったのかわからないのが惜まれる。次年度には重点課題とそれを達成する取り組みを明記した事業計画書と今年度の事業報告書の作成が期待される。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **5/5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

年度初めの職員会議で園マニュアルの中の「服務」等を読み合わせ遵守に取り組んでいる
当園の職員は区の職員でもあり、職員として守るべき法や規範等を記載した「職員の手引き」や「こころを育てる馬込保育」および重要事項説明書、保育園マニュアル等を全職員に配布し、年度初めの職員会議で園マニュアルの中の「服務」等の読み合わせとともに説明している。また、プライバシーポリシーについての研修も行い個人情報保護の意識づけをしている。職員の日々の保育の中での意識づけには、視覚的に全国保育士会の倫理綱領等の掲示等も方法として考えられる。

保護者からの要望や苦情は園長等が当該保護者と面会し、早期対応を心掛けている
保護者からの苦情や相談は当園以外に行政の窓口や第三者委員に相談できることを重要事項説明書に記載し、入園の読み合わせ時に説明している。また、園内には福祉オンブズマン制度についてのポスターを掲示している。保護者からの要望や苦情は必要があれば園長または副園長が早期対応を心掛け、園マニュアルの「苦情解決の手順」に従い速やかに当該保護者と面会し、内容により園だよりに掲載し個別に文書等で回答している。

園の保育士や看護師、栄養士が子育て相談を行い子育て情報の発信基地として努めている
地域の福祉ニーズに基づき子育て支援の一環として、園の専門性を活かしてホールで遊ぼう会や離乳食講習会を開催し、地域の子育て所帯を招いている。離乳食講習会には5組程が参加した。また、園の保育士や看護師、栄養士が電話相談や育児相談を行い、子育て情報の発信基地および集いの場として機能している。公開保育運営委員会を中心に、地域連携推進のネットワーク活動の一環として、近隣の保育園に呼びかけて公開保育を行い、21園が参加しているなど地域との関係性を高める取り組みをしている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>災害等のリスクに対して事例を想定した訓練の計画を立てて定期的に行っている</p> <p>子どもたちの生命に関することを最優先として、事故や感染症、災害、不審者侵入等のリスクに対して対策を講じ、安全計画および各対応マニュアルに沿って、事例を想定した訓練の計画を立てて定期的に行っている。職員は全員が区の救命講習を受講しているほか、災害時や緊急対応時にとるべき行動をフローチャートにして一目でわかりやすい取り組みがある。また、応急保育所として、シミュレーション訓練を行うなどして非常時の対応に備えている。</p> <p>BCPを通常業務にも役立つように役割分担をしている</p> <p>災害等に遭遇した場合の業務継続計画(BCP)は区が策定したものに園が現状にあわせた対策を加筆して策定している。1頁目には大災害対応から復旧完了までの流れをフローチャートでわかりやすく記載している。さらにBCPの基本方針や地域連携、復旧活動、自衛水防組織や自衛消防隊組織における担当者を明記しており、園ではパートごとにBCPを管理していて、職員会議でその趣旨を理解させ、より通常業務に近い保育ができるように役割分担をしている。そのほか園作成の防災計画があり復旧計画まで策定している。</p> <p>情報はファイルにして事務室に設置し必要な情報を必要な時に得られるようになっている</p> <p>区や園で収集した情報はファイルにして事務室に設置し、必要な情報を必要な時に得られるようになっている。パソコン内の情報は顔認証でアクセス制限をして9台のパソコンを事務所に設置している。紙媒体の書類はナンバリングをして整理・管理し、業務終了時には個人情報や重要書類は鍵のかかる書庫に保管している。個人用のパソコンやUSB記憶端末は、セキュリティ管理のため使用は禁止している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ5の講評

区の人材育成基準方針に準じてキャリアパスについて周知する取り組みがある

職責や職務内容に応じた長期的展望であるキャリアパスは、区の人材育成基準方針を配布したり、園長による職員面談時に面談シートに職員が自身の職業人生を主体的に構想するキャリアデザインを記載し、園長が把握するようになっている。ただ、職員調査ではキャリアパスについての関心はそれほど高くはない。キャリアアップ研修は職員面談時に園長が対象者に推奨したり、職員の経験年数や本人の希望に合った職場研修を受講できるよう計画している。

園長は職員との定期的な個人面談を通して職員の個別研修計画を策定している

職員は区や園目標に基づいて本人の業務や研修についての希望を面談シートで述べ、園長は職員との定期的な個人面談を通して面談シートを基に職員の個別研修計画を策定している。年度の後半の職員面談で園長は計画に対する進捗状況と成果を確認したり、適宜育成指導をしている。新人にはクラスリーダーでない経験のある職員が育成リーダーとなりOJTを行い、園長、育成リーダー、新人職員が三者面談をして育成プランの確認や指導をしている。

職員はクラスとPTの両方に関わり、複合した活動のなかでチームワークが生じている

職員はクラス打ち合わせやリーダー会、職員会議で質疑や発言する機会を持ち、内容を共有して保育や保護者対応に活かす取り組みがあり、職員調査でもリーダー会を中心に風通しとチームワークが良い組織であるという声がある。各種取り組みはPTで取り組むこともあるが、職員は全てにおいて事前に打ち合わせ、子どもにとって最大の利益になるよう確認しながら目標達成に向けて意見を出し合い、クラスとPTの両方に関わり複合した活動でチームワークが生じている。園長は面談時に職員の頑張りをほめるなど、意欲と働き甲斐の向上に努めている。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【課題・目標】 拠点園として園児だけでなく地域の子どもの育成を主眼とし、地域との交流を持ちながら保育の質の向上を目指さなくてはならないために、自園の保育を保護者や地域に発信しながら適切な連携・支援をしていくことを目標とする。	
【取り組み】 ①保育を語り合うをテーマにした公開保育では地域の28の保育施設を招いて一緒に学びあう機会を設けた。 ②子育て支援では地域の在宅児世帯を招いて離乳食講習会や木の玩具で遊ぼう、夏の遊びなどを企画して来園してもらうことで、子育て相談しやすい関係性を作っている。	
【取り組みの結果】 ①地域の保育施設とは施設長同士の繋がりだけでなく保育交流に繋がったり散歩先での保育士同士のやりとりがスムーズになった。 ②在宅子育て世帯を招くことで、育児の悩みを聞いたり、育児応援券を利用した給食の試食により家庭でのヒントになっている。	
【今後の方向性】 ①管轄する保育施設とできるだけ多く、より多様な連携・交流をしていく。 ②子育て支援の企画に小規模園の乳児を誘うなど連携推進担当者と連動して計画する。	
目標の設定と 取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 重要事項説明書にも当園が地域の拠点園として地域に開かれた保育園になることをうたっており、園児だけでなく地域の子どもの育成を主眼とし、地域との交流を持ちながら保育の質の向上を目指さなくてはならないために、自園の保育を保護者や地域に発信しながら適切な連携・支援をしていくことを目標とし、達成するための計画を策定することは必要と思われる。そのために取り組みとして職員は全てにおいて事前に打ち合わせ、子どもにとって最大の利益になるよう確認しながら目標達成に向けて意見を出し合い、公開保育などクラスとPTの両方に関わり複合した活動で生じたチームワークを活かしている。取り組みの結果、在宅子育て世帯を招くことで、育児の悩みを聞いたり、育児応援券を利用した給食の試食により家庭でのヒントになっている。また、保護者にも園行事を理解してもらいながら、子どもを真ん中にして考えていくことと共に、育てていく関係性が構築できたことは評価できる。今後の方向性として、交流だけではなく自園で取り組んでいることは他園にも伝えたいし、看護師や栄養士等の専門職の活動の幅を広げたいとしている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

コロナ禍等で会議が減少し日常的に対話が少なくなり、園全体の意識の共有や統一感の必要性から、園全体で良好なチームワークを築けるよう保育を語り合う場を増やし、普段から相談し合える関係性を園全体で作し、同僚性を高めることを目標とする。

【取り組み】

- ①年間で計画した園内研修の時間や職員会議の後半の時間を利用して職員主体の語り合える時間を設けた。
- ②「保育を見合う」「食事の援助の仕方」「記録の取り方」「外部講師を招いて保育を語り合う」をテーマに公開保育をし、少人数のグループで話し合った。

【取り組みの結果】

それぞれのテーマでの意見交換により、クラスやパートでの考え方の方向性が決まり、スムーズに保育が進められた。

- ③職員同士の保育の考え方や方法がお互いにわかり、チームワークが良くなり同僚性も深まった。

【今後の方向性】

- ①園内研修の外部講師からのアドバイスにより、保育ウェブやドキュメンテーション等の手法を活用して保育実践につなげる。
- ②継続して講師より乳児保育等へのアドバイスを受ける。
- ③今後も保育の質の向上に向けて日々の保育を充実させていく。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

普段から相談し合える関係性を園全体で作し、同僚性を高めることを具体的目標として設定している。この目標は、子どもの保育をする上で何よりも大切にしたいことを職員が同じ思いで進める事であり、全体的な計画に記載されているように、保育の内容が組織的、計画的に構成されて総合的に展開されることと合致する。職員会議の後半の時間を利用して職員主体の語り合える時間を設けたことは、事務連絡の時間を減らすなどして自由に意見を言える時間を増やしたことであり、保育の統一感、同僚性を培うための取り組みであり、その結果、目標とする同僚性が深まったとしている。また、自由な意見の交換の中でお互いが共感する部分を理解し、本園のチームの一翼としての自覚の再確認ができたという成果が出ている。今後の方向性として、保育と共に運営面のPDCAサイクルのCの部分、計画の振り返りや評価を職員と共にしっかり行うことで、次期の取り組みの方向性が明確になり、職員も参加したことにより、責任感をもって取り組むと思われる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>区のホームページに、保育園案内や定員、園見学の申し込みに関する情報を提供している</p> <p>区のホームページには、定員一覧表や区立保育園案内があり、園の保育目標や延長保育、入園時の保育時間、年齢別の園生活の流れや食事、家庭との連携の他、入園時に準備する物、病気の対応や投薬に関する情報などが詳細に掲載され、把握できるようになっている。園を見学したい場合の申し込み方法や入園の申し込みに関わる保育の必要性の認定のしくみなどの情報も提供され、必要に応じて情報を入手できるようになっている。</p> <p>空き状況や延長保育の利用状況を行政に報告し子育てマップを地域の施設に配付している</p> <p>行政には空き状況や、延長保育の利用状況、感染症情報を毎月報告をしている。地域子育てマップを作成し、公立保育園の特徴と受け入れ年齢、住所、電話番号を掲載したり、地域に向けた子育て支援事業の行事内容を「まごめひろばだより」として発行したりして、図書館や児童館、園の隣にある出張所に置かせてもらっている。区で毎年改訂している、子育てハンドブックは、子育てに関するサービスや情報を提供し園の情報も掲載し、行政の窓口や園にも置かれ、いつでも手に取ることができるようにしている。</p> <p>見学会の日程は年間で計画し、希望者には電話で申し込んでもらい、園内を案内している</p> <p>保育園の見学会は、6月から11月の間に6回計画し、日程は区のホームページに掲載されている。見学は電話で申し込んでもらい、園では見学者受付簿に記載し当日は10時と14時の2回、5組から10組の見学者を受け入れ、地域連携担当の職員が対応している。見学者には、園の概要版を作成し配付している。見学案内の時には、蓄積された見学者からの質問を整理し、例えば、職員の配置、延長保育、食事や食育活動のこと、けんかの対応などに対して、園で実施していることを答えやすいようにマニュアルを作成し誰が担当しても困らないようにしている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保育の開始時にはオリエンテーションと面接を実施し重要事項の説明をし同意を得ている 入園の決定は、行政から保護者に郵送で連絡が行き、入園に必要な書類は園に取りに来てもらっている。入園前面接とオリエンテーションは4月入園の場合には、別日に実施している。面接の対応は、保育士と園長が実施し、0歳児とアレルギー児に対しては、看護師と栄養士が入っている。3月の中旬にはオリエンテーションを実施し、園長が重要事項説明書を基に、プレゼン用ソフトを活用して説明をしている。個人情報保護法について(プライバシーポリシー)の説明をして、個人情報の利用目的についての説明と承諾の提出をお願いしている。</p> <p>保育に必要な情報は入園面接で把握し、定められた書式に記録し、職員間で共有している 保育に必要な児童調査票、年齢別の調査表、食材摂取確認表など区で統一した書式を事前に保護者に渡し、入園面接の時に記入して持参してもらっている。面接では、安心して保育園で生活できるように、記録内容を見ながら子どもの成育歴や養育状況について確認をしている。面接当日に聞きとったり、確認した子どもの情報は、面接担当の保育者が入園面接記録用紙の子どもの様子欄に記録し、3月中旬に行われる職員会議で報告し、職員で新入園児の情報を共有して、保育ができるようにしている。</p> <p>入園時の環境の変化に配慮して、慣れ保育を保護者と相談して実施している 慣れ保育は、区のホームページで周知し、園では概ね1週間をめどに、保護者と相談して決めた保育時間になるようにしている。0歳児は授乳や離乳食後まで、1・2歳児は昼食の11時30分頃、幼児クラスは昼食後の12時頃の降園から始め、その後、午睡まで、おやつ後になど、保護者と相談をしながら実施している。保護者によっては、育児休業中を使い、ゆっくり進めたり、1歳児以上の転園児は3日ほどに短縮している。環境の変化に対する子どもの不安を軽減できるように、フリー職員が保育に入り、個別の対応ができるように配慮をしている。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ3の講評		
<p>子どもの心身や生活状況は保育活動で、保護者の意向は個別面談で把握し記録している</p> <p>日々の保育活動は保育日誌に、健康面は看護師が保健日誌に記録し把握している。家庭での様子は0歳児から2歳児は連絡帳で、3歳児から5歳児は健康観察カードに体温や健康状態を記入し持参してもらっている。子ども発達の姿は、0歳児は毎月、1・2歳児は3か月毎に、3歳児から5歳児は年4回記録し、これらの書式は区で定められている。保護者の意向は、個人面談が年3回あり、年度初めはすすくプランの育ちのねらいを話し合っ決め、2回目は家庭や園での様子を伝え合い、年度末の3回目はすすくプランの到達度を確認し記録している。</p> <p>全体的な計画と指導計画が連動するように伝え、事例を持ち寄り子ども理解を深めている</p> <p>全体的な計画を基に、クラス別の指導計画を作成し、月・週の計画の作成時には全体的な計画に連動するように伝えていて箸の導入時期や手洗いなどの基本的なところはできているが、保育の内容を含めこれからの課題と考えている。週の計画はねらいと主な活動を玄関フロアに掲示して知らせている。子ども理解を深めるためにクラスから事例を出し合い具体的な子どもの姿を話題にして園内研修をしている。子どもの姿から気持ちを想像したり関わり方を考える時に保育ウェブとして蜘蛛の巣状の図にして話し合いを可視化することでより子ども理解が深まっている。</p> <p>早番職員や昼礼で子どもの情報が報告され昼礼ノートに記録し共有できるようにしている</p> <p>早番職員からの子どもや保護者の情報は、クラス別の遅早連絡簿に記録されクラスに伝えられている。毎日12時45分から昼礼が各パート1名が参加し行われている。昼礼では連絡事項、給食の喫食状況の報告、翌日の職員体制や打ち合わせの予定、スポット利用やアレルギー食の確認などが行われている。各パートは聞きとったり、昼礼ノートを写してクラスノートに記入し、クラスで報告をし、会計年度職員はクラスノートで確認し共有している。昼礼ノートは事務室に置かれ昼礼以降の情報が記録されるので、職員はノートを確認し名前をチェックしている。</p>		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>区の個人情報保護条例に沿って、保護者に説明をして承諾を得るようにしている</p> <p>区の個人情報保護条例に沿って、情報の保護や関係機関との連携を図るようにしている。入園時の重要事項説明の際に、プライバシーポリシーについて説明し、個人情報の収集や使用目的、管理の内容を伝えている。就学支援シートの作成時には保護者と一緒に作成し、学校に提出時には同意のサインをもらっている。保育所児童・保育要録を学校に提出することは、年度初めと後半の5歳児の保護者会で伝えている。区立保育園間の転園の場合は、保護者から個人情報の受け渡しの承諾を得て、園間の情報を引き渡すことができるようにしている。</p> <p>子どもの人権に配慮した環境を整え、職員の言動を定期的に振り返る機会を持つている</p> <p>子どもの羞恥心や人権に配慮して、着替えの際には全裸にならないように着替えの順番を知らせたり、プールのシャワーは水着のまま浴びるようにしたり、おむつ交換の場所を定め目隠しをするなどの対応をしている。子どもの人権については、年度当初に保育理念や保育姿勢を読み合わせ意思統一を図っている。年1回人権擁護のセルフチェックを行い、傾向をまとめて職員に報告をしている。職員間や保護者対応で肯定的な言葉かけができるように、リフレーミングワードを活用したり、今後は職員に配付してある不適切な保育の資料の読み合わせを予定している。</p> <p>虐待対応や予防ができるように、マニュアルの読み合わせや職員間で対応を確認している</p> <p>虐待や育児困難家庭への支援ができるように、研修に参加したり、職員会議で報告をしたり、資料を読み合う機会をもち理解を深めている。また、虐待防止マニュアルを読み合わせて対応ができるようにしている。日々の保育の中で子どもや保護者の言動で違和感を感じた時には、直ぐに園長や副園長に報告をすることを職員間で確認をしている。虐待を疑う事例があった場合には、子ども家庭支援センターと連携が取れるようになっている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
業務の標準化を図るために、区のマニュアルや園独自のマニュアルを整備している 業務の標準化を図るために、区のマニュアルや園で作成したマニュアルが整備されている。園独自のマニュアルには、職員の手引きや就業規則、仕事の手順や流れ、書類の書き方、業務内容や役割、嘔吐処理、その他保育に必要な資料などが職員に配付されている。収集されているマニュアルは役割表や手順書、手引書などが混在している。園のマニュアルのすみ分けと共に、区の職員として必要なマニュアルや国のガイドラインに基づき作成されているマニュアルなどを職員にもわかりやすく周知する方法の検討も期待したい。		
園舎内外の点検を実施し、重要事項やマニュアルの見直しをして差し替え、保管している 園舎内外の点検は、毎月1回実施され、園舎内(登園時と園舎内活動時)と園外の2種類のクラス別点検表で安全点検を実施している。園外の点検内容に防犯ブザーを持参の項目があり、2か所に分かれて出かけた時に数の問題が提起されたり、保育室の棚の固定に関しては、上に落ちて危険なものは置かないようにしたり、棚の固定の提案があるなど改善につなげている。重要事項説明書の内容は区で見直し、変更部分を差し替えをし、マニュアルについてもその都度差し替えるようにしている。職員は虐待のケースや防災の担当になると、確認をしている。		
業務の見直しに当たっては、保護者のアンケートや職員からの提案を受け改善をしている 業務の見直しに当たっては、保護者参加の行事の運動会では、実施後に反省会を行うとともに、保護者にアンケートを実施している。競技内容や時間、座席、進行、連絡方法などの項目や来年度の開催方法についても意見を聞いて、次年度の検討に活かせるようにしている。職員からは年度初めとその後登園時間が変わることで当番体制を変更してもいいのではないかの提案があり、職員会議で検討をして変更するなど、見直しの取り組みをしている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>保育活動や保護者との会話で子どもの全体的な姿を把握し、計画に基づき保育をしている</p> <p>入園前の子どもの状況は、入園時の保護者との面接で把握し、入園後は、家庭の様子は保護者との会話や連絡帳(0歳児から2歳児)や健康観察カード(3歳児から5歳児)で把握し、日々の保育活動で子どもの全体的な姿を把握し、保育日誌に記録している。0歳児から2歳児は個別の指導計画を作成して担当制で保育を行い、子どもの育ちに沿ったかかわりができるようにしている。3歳児から5歳児は、月の指導計画を基に、週の活動計画を立て、年齢や発達に応じた遊びが提供できるようにしている。</p> <p>子どもが能動的に行動できるように、年齢に応じた環境を提供できるように工夫している</p> <p>子どもの言葉を肯定的に捉えることが主体的な行動につながると考え、年齢に応じた環境を整え能動的に行動できるようにしている。クラス打ち合わせで、共通理解として心を育てる大田の保育や保育所保育指針を共有して保育に当たっている。0歳児から2歳児の保育室は小集団になるように部屋を分けたり、コーナーを設けて少人数のグループで遊べる環境にして年齢に応じた玩具を備え子ども自身から手に取って遊べるように工夫している。発達上特性のある子には、相手の気持ちに気づくサポートをしたり必要に応じて介入して代弁をするかかわりをしている。</p> <p>子ども同士のトラブルをマイナスと捉えないように対応し発達上の特徴として伝えている</p> <p>子ども同士のトラブルでは、前後の状況を把握するように努め、トラブルをマイナスと捉えないようにしている。言葉で表現できるよう、お互いの気持ちを受けとめ、尊重してそれぞれの気持ちに折り合いができるように援助している。例えば、興奮した場合にはクールダウンする場を提供したり、話す場合には仲介をするなどの対応をしている。保護者対応では名前を伝えるかを協議をしたり、どう伝えるか苦慮するが、年度の初めの保護者会で成長発達での姿と子どもの気持ちを尊重した対応を伝えていることがトラブルに対する理解に繋がっていると感じている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には健康観察をし、保護者から家庭での様子を聞きとり遅早連絡簿に記録している</p> <p>登園時には 早番担当の職員が子どもの機嫌や顔色などの健康観察をして、保護者からの口頭での報告を聞きとり、クラス別の遅早連絡簿に記録している。連絡帳(0歳児から2歳児使用)には、降園後の子どもの様子や食事や睡眠、排泄のなどの記録があり、確認をしている。幼児クラスの健康観察カードに書かれた体温や体調などの状態を確認している。個別の子どもの健康状態を把握して、保育ができるように、遅早連絡簿を必ず見るようにしている。0・1歳児の連絡帳は24時間の把握が出来るように休みの日にも無理をしない範囲で記入をお願いしている。</p> <p>基本的な生活習慣の大切さは、保護者会で看護師や栄養士が伝え、個別にも伝えている</p> <p>基本的な生活習慣の大切さは、園だよりやすすくすくパワーのえいようだより、健やか子育てだよりで伝えたり、保護者会の時に栄養士は朝食の大切さを、看護師は睡眠の大切さを伝える機会を持っている。個別には子どもの生活状況を見て、生活リズムの大切さを伝えるようにしている。トイレトレーニングや箸の使用など、基本的な生活習慣の自立への取り組みでは、例えば、トイレトレーニングでは個別の状況により1歳児でも対応することはあるが、園では2歳児クラスから働きかけをしている。年齢や個別の状況に配慮して保護者と相談して進めるようにしている。</p> <p>降園時には連絡帳やクラスごとの保育の様子を掲示し受け渡しの際に口頭でも伝えている</p> <p>降園時には、連絡帳に子どもの様子を具体的に記入し幼児クラスは玄関に保育活動の様子を16時までにクラスごとに掲示して知らせている。受け渡しの時にも口頭でクラス担任が子どもの様子を伝え保護者とコミュニケーションをとるようにしている。17時までは丁寧に対応できるが、それ以降の混雑している時間帯では園長も含め対応できるようにしている。ケガや個別の伝達の場合には場所を変えるなど配慮した対応をしている。長時間の子どもが増加しているので月1回発行してるクラスだよりの充実を図り保育内容を発信していくことが必要と考えている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>職員会議や園内研修で保育を見合い、保育室の空間に配慮できるようにしている 園内研修でクラスの保育環境の設定を見合い意見交換をする機会を作っている。保育室にはごっこ遊びのコーナーを作り、棚には取り出しやすいように玩具を並べ子どもが選んで遊ぶことができるようにしている。遊びこめる時間を保障できるように、パーテーションを置くなどして空間を作り集中して遊べるよう配慮している。また、継続して遊ぶことができるように、遊び途中の玩具を置く場所を作るなどして、やりたい気持ちを保障できるようにしている。会議の中で、ままごとコーナーの衣類や玩具の素材を増やすなどの意見があり検討をしたいと考えている。</p> <p>言葉にならない言葉の読み取りをしたり、言葉について考える機会をもっている 0・1歳児の保育の検討では、写真を使ってどんなことを言いたいのか、表情や身振りから言葉にならない声を読み取る機会を持ち、子どもの気持ちを言葉にして返し、寄り添うようにしている。幼児期になると、日常とは違う語尾の「です」や「ます」などを使って話したり、適切な言葉の使い方を知ってもらいたいと考えている。また、5歳児は、「うれしい言葉」や「いやな言葉」を考える機会を持ち、嫌な言葉から自分の嫌な経験を考えたり「うれしい言葉は優しく言うといいね」などの子どもからの意見を取り上げて話す機会を持っている。</p> <p>戸外には年齢によって目的を変えて出かけ、園庭でも季節を感じる機会を作っている 園外に出かける時には、0歳児から2歳児は、路地散歩に行ったり、たくさん歩くことを楽しんでいる。幼児クラスでは、歩く距離を伸ばすなどの目的をもって出かけ、自然物に触れたりしている。散歩には、散歩届を提出して週1～2回は出かけている。園舎の周りには公園などの散歩先が9か所あり、散歩マップを作成し、ファイルにして事務室で管理し、園だよりで知らせている。園庭には桜の木があり、花見をしたり、虫探しをしたり、園舎わきの畑で季節の野菜を育てるなどの経験をし、季節を感じる機会を持っている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は、年齢にあっている内容にして、子どもたちが意欲的に取り組めるようにしている</p> <p>日本の伝統行事の七夕や節分、ひな祭りなどを実施するときには、その由来を年齢に応じてわかりやすく伝えていきたいと考えている。行事に取り組む時には、前年度の反省を基に、子どもたちに必要な経験は何か、内容が年齢にあっているのかを職員で検討して、子どもたちが意欲的に取り組めるようにしている。運動会に向けては、遊戯の曲をかけると、子どもたちがユニークな歌詞とリズムに興味を持って楽しんで参加している。また、クラスを入れ替えて実施し、子どもを身近に感じたり、待ち時間が短くなり、集中して自己発揮できる時間になっている。</p> <p>5歳児のお店屋さんごっこでは、みんなで協力して取り組み満足感を味わっている</p> <p>お店屋さんごっこでは、1か月半程をかけ朝の会で話し合ったり、お店で売る物を作るなどの活動を積み重ねて当日を迎えている。お店の数を5つにすることを担任が伝え、グループで話し合っ決めて、担任が作った見本を見ながら何度も繰り返してお店の商品を作ったり、看板は担任が鉛筆で書いた後に、みんなで色付けをして完成をしている。当日は他クラスからのお客さんを相手に、張り切って売る姿が見られるなど、満足感を味わう取り組みになっている。普段の保育の延長線上に、子どもが主体になって取りくめているか意識していきたいと考えている。</p> <p>年間行事予定表を配付し、保護者会や個人面談も含め参加しやすいようにしている</p> <p>年間行事予定表は、保護者が調整して参加しやすいように年度の初めに配付している。保護者参加の行事は、運動会とクラス別の保護者会、個人面談、保育参観と個人面談、保護者会とお楽しみ会など、クラスや入園時期などに配慮して計画を立て、事前に出欠表を配付し、参加を促している。行事の案内や取り組みの様子と見どころは、クラスだよりでやお知らせで保護者に伝え理解や協力を得るようにしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育室にマットやござのスペースを作り、安心して過ごせるように配慮している</p> <p>延長保育の時間は、玄関に近い3歳児室で過ごし、テーブルやいすの配置をずらして、マットやゴザのスペースを作り、そこでゆったりと安心して過ごせるようにしている。また、異年齢で過ごすので、食事の場所や遊ぶ場所、着替えやおむつ交換をする場所など衛生面を考えてコーナーで仕切るようにしている。延長保育日誌には、迎え時間とスポット利用児の名前を記入し、特記事項には、その日の子どもの様子を、備考欄には、対応したことを記入し職員間で連携が取れるようにしている。</p> <p>固定した職員を配置し、延長保育用の玩具を用意し楽しく過ごせるようにしている</p> <p>延長保育に当たる職員で、会計年度職員1名を固定して配置し、いつも同じ職員がいることで、子どもも保護者も安心できるようにしている。補食の献立の確認は当番職員が行い、18時15分頃に食べることができるようにしている。延長保育用の玩具は、1歳児や2歳児が遊べる玩具を用意して、安全に楽しく遊べるように配慮している。これらの玩具は、3歳児クラスの玩具と混同しないように、1階の倉庫に保管し、必要な時出して提供できるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが落ち着いて食事ができるように、席を決め、グループごとに食べている</p> <p>食事の環境は、落ち着いて食べることができるように、クラスごとに子どもの席を決め、1・2歳児は担任がそばにつき、落ち着いた環境の中で、グループで一緒に食べている。テーブルや椅子は、年齢や子どもの体格に応じて高さを配慮して姿勢を正して食事できるようにしている。また、0歳児や1歳児は姿勢を保って食事できるように、子どもの状況に応じて背中側に滑り止めや床に足を着けて食べることができるように足置きを置くなどの配慮をしている。</p> <p>喫食状況は昼礼で把握し、アレルギー食の提供には誤食に対して細心の注意を払っている</p> <p>献立は2週間サイクルで作成し、毎日の昼礼で前日のおやつや当日の喫食状況が報告され、残食状況も把握し、後半の味付けや形態に活かすようにしている。また、給食献立反省に喫食状況を記録し、毎月末に所管課に提出している。アレルギー食の提供は、年1回の医師の生活管理指導表の提出を基に実施している。配膳時にはチェック表を基に給食室で、受け取りに行った職員と給食職員で、保育室で保育者同士で、トリプルチェックをして、誤配を防ぐとともに、個別のテーブルを用意して提供するなど誤食を防ぐよう細心の注意を払っている。</p> <p>食育計画を作成し、野菜の収穫やライブクッキングを楽しむなど食への興味を広げている</p> <p>年齢別の食育計画を作成し、3歳児以上は食育実践の欄があり姿勢やパンの食べ方、食具の持ち方などマナーを学んだり、食材の下ごしらえや栽培に取りくむ計画になっている。トウモロコシやお米を栽培してポップコーンやおにぎりにして食べ、食材の皮むきをして楽しんでいる。栄養士によるクラス毎のライブクッキングでは目の前でピーマンやナス、オクラやシイタケの調理を見たり、給食で使う野菜を玄関に展示して食への興味や関心を広げる取り組みをしている。地域の博物館から地域発祥のナスの苗をもらい育てたが、来年度に再挑戦する予定にしている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>年間保健計画を作成し、期ごとに健康教育を計画し、看護師を中心に実施している</p> <p>年間保健計画を4期に分けて作成し、3歳児から5歳児を中心に健康教育計画を立案している。手の洗い方ではパネルを使ったり、ばい菌が残った手をみせるなどしたことで、子どもが手洗いの必要性を理解する取り組みになっている。また、5歳児に対して視力検査をして、就学への関心につながるなどの効果をあげている。プールが始まる前にはプライベートゾーンの話をして身体の大切さを伝えている。今後は衣類の調節や風邪予防に取り組む予定をしている。また、危険個所の確認や道路の飛び出し、帰宅時に注意することなどの安全教育も実施している。</p> <p>定期的に健康診断を実施し、医師の指示書を基に与薬の対応をし、健康管理に努めている</p> <p>嘱託医による定期健康診断は、0歳児は毎月、1歳児から5歳児は年2回、歯科健診は年2回全園児対象に実施している。毎月の身体計測や視力検査も含め、健診の結果は保護者に知らせている。与薬は原則対応しないことになっているが、医師の指示書と保護者からの依頼書の提出で対応している。1回分の薬を持参してもらい医療戸棚に保管し、園長または看護師が与薬をしている。子どもの体調の変化に対しては、38度を目安に保護者に連絡をして、早期予防や回復に努めるなど、子どもの健康管理に努めている。</p> <p>感染症や乳幼児突然死症候群の情報を伝え、予防や感染拡大に配慮できるようにしている</p> <p>感染症の発生情報は、電子媒体のアプリで保護者の伝えると同時に、玄関やクラスの入り口に掲示して知らせ、感染拡大や予防に努めている。乳幼児突然死症候群の予防については、入園児の面談で個別に話したり、保護者会でも伝えている。園では0歳児は5分おき、1・2歳児は10分おき、幼児クラスは30分おきに、子どもの体位や呼吸を確認しうつぶせ寝を防ぎ、午睡チェック表に記録し把握し予防をしている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労や個別の事情に対しては、面談をしたり職員会議などで共通理解をしている</p> <p>保護者の就労や生活事情の変化に対しては、入園時に把握した児童調査表の記載内容や保護者からの会話で把握し、個別の事情に配慮したかわりを心掛けるようにしている。保護者からの急な残業の連絡は、17時までは補食の用意ができるが、それ以降は水分補給での対応で受け入れている。個別の相談に対しては、園長と個別面談をしたり、内容によっては関係機関と連携ができるようにしている。また、職員会議や昼礼で情報を共有して対応できるようにしている。</p> <p>保護者会で保護者同士が情報交換ができる時間を設け、参加率は90%を超えている</p> <p>保護者会は、年2回クラス別に実施し、アンケートをとってテーマ(休日の過ごし方など)を決めたり、朝食の簡単メニューを紹介したり、0歳児では離乳食講習会を行うなど、保護者からは「情報交換ができてよかった」など好評を得る企画になり、参加率が90%を超えている。送迎時には保護者に声をかけ、気持ちに寄り添い個別に配慮した対応を心掛けていることが、丁寧な対応を信頼できるや小さなことでも相談でき安心して預けられるなどの声になり、保護者の満足度が伺うことができる。</p> <p>定期的な面談で子どもの成長を確認したり、育児の情報を共通理解する機会がある</p> <p>年2回すすくプランの定期的な面談をしている。1回目は保護者と共有したい子どもの好ましい姿を保育者が記入し、こんな姿をめざしてと、育てたい姿や園で進めていく具体的な配慮を記入して保護者面談をし、家庭で大切にしたいことを記入してもらっている。2回目は年度の終わりに、子どもの成長を確認し振り返りをして保護者と共通理解をしている。看護師による、乳幼児期に多い事故やけがと、スキンケアなどを聞く機会を設け、養育力を高めるための情報の提供をしている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>図書館や児童館に出かけたり、実習生と一緒に遊ぶなどの交流をしている</p> <p>5歳児は年2～3回近くの図書館に出かけ、本を借りたり、図書館での約束を守って利用している。児童館にも出かけ遊ぶ機会を持ち、今後は小学校との交流をしたいと考えている。実習生や子育て支援員の研修では、子どもと一緒に触れ合って遊ぶ機会を設けるようにしている。地域の認証園や小規模園と一緒に園庭で遊ぶ機会を作り、子ども同士の交流で多様な体験ができるように計画をしている。</p> <p>地域子育て支援では、地域支援プロジェクトが企画し園庭で一緒に遊ぶ環境を作っている</p> <p>地域子育て支援では、地域向けポスターを掲示して参加を促し、育児応援券の利用で、離乳食講習会やホールで遊ぼうを企画し実施したり、木のおもちゃで遊ぼうを企画している。園庭開放の時には、園児と一緒に遊べる環境を作るようにしている。地域の子育て世帯の活動時間を考え、現在は10時を開催時間にしてはいるが、今後利用者目線を深めて検討をする必要があると考えている。また、園児と関わる時間についてはプロジェクトの議事録にある設定時間の工夫も検討課題として期待したい。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル①	職員は互いに不適切な言動に気付いた場合には伝え合っている	
内容①	子どもへの声掛けや保護者への言動については人権を傷つけないことを念頭に置いて相手の話を傾聴し受容することを職員一同大切にしている。保育はできるだけ複数で行い、互いに不適切な言動に気付いた場合には伝え合っている。言いづらい場合などは事務所に伝え、園長が当該職員に注意を喚起している。また、セルフチェックリストを使って職員が自身の不適切言動をチェックしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子ども理解を深めるために事例をたくさん挙げて話し合い、理解し合って保育をしている	
内容②	クラスの保育を実践する中で、子どもの姿を通して気持ちを理解するための働きかけや戸惑い、声掛けの仕方などの事例をたくさん持ち寄り話し合いをしている。例えば子どもの遊びへの興味について次のステップに行くための見守りや関わり方などに対する職員間の発言を通して自分の保育を振り返る機会になっている。また話し合いで出た意見や子どもの姿を保育ウェブという蜘蛛の巣状に図式化した方法で可視化して話し合うことでより子どもの姿や保育の内容が理解しやすくなり子ども理解を深める話し合いを通して意図を持った保育の実践に繋がっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	野菜の栽培や食材の展示、身近な野菜でのライブキッチンなど、食への興味を広げている	
内容③	給食に提供される食材のトウモロコシやそら豆の皮をむいたり、スイカやお米、トウモロコシを栽培して、お米はおにぎりに、トウモロコシはポップコーンにするなど栽培した野菜を給食で食べる経験をしている。毎日の給食で使用する野菜は、玄関フロアの一角にいつでも興味を持った時に手に取るできるように置かれている。給食納品業者の協力で魚の解体を見たり、栄養士によるクラスごとのライブクッキングで、ピーマンやナス、シイタケ、ニンジンなどの調理の出来上がるまでの流れを見る機会もあり、食への興味や関心を広げる体験をしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	主に地域支援PTの職員が地域の在宅子育て支援に注力しそのイベントや見学会運営、育児応援券対応などの企画、実施を担っている
	内容	職員は拠点園としての、そして子どもの育成を担う役割としての自覚をもって、地域の子育て世帯に来園してもらっている。子育て広場として園庭開放やホールで遊ぼう会、おたよりの発行の企画を提供し、来園者や窓口電話対応に明るく安心できる雰囲気に対応している。その業務は主に地域支援プロジェクト4名の職員が、見学会運営、育児応援券対応等の企画、実施を担い、地域の在宅子育て支援のホールで遊ぼう会のポスターを掲示したり、見学者への地域子育て支援のイベントの離乳食講習会を呼びかけたり、地域季刊誌まごめひろばを配付している。
2	タイトル	職員会議の後半の時間を利用して職員主体の語り合える時間を設け、職員が自由に意見を言える時間を増やしている
	内容	園では保育の統一感、同僚性を培うための取り組みとして、職員会議の後半の時間を利用して職員主体の語り合える時間を設け、事務連絡の時間を減らすなどして自由に意見を言える時間を増やしている。そのため自由な意見の交換の中でお互いが共感する部分を理解し、相手の意見も受容し、本園のチームの一翼としての自覚の再確認ができたという成果が出ている。
3	タイトル	連絡帳やクラス別保育活動の掲示、子どもの気持ちに寄り添った職員の対応や気軽に話ができる環境を作るなど、保護者の満足度を高めている
	内容	複写式の連絡帳は0歳児から2歳児が使用し、個別の子どもの様子を丁寧に記録し、幼児クラスは週のねらいとともに、主な活動と子どもたちの様子を玄関に掲示し、翌日に散歩に行く予定があると何時までに登園してくださいなどが記入され、お迎え時に親子の会話になるように工夫された情報になっている。朝夕の送迎時には明るく挨拶をして和やかな雰囲気を作ることを心がけたり、打ち合わせなどで子どもの様子や気持ちに添った対応について話し合う機会もあり、職員の子どもへの丁寧なかかわりが保護者が安心感を持ち、園に対する満足度を高めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	次年度には重点課題とそれを達成する取り組みを明記した事業計画書および今年度の事業報告書の作成が期待される
	内容	園で策定した中長期計画を基に今年度の「全体的な計画」と単年度計画が策定されている。中長期計画には園の保育理念と保育目標が明記されており、保育の質の向上や危機管理、子育て支援、外部交流等の重点項目ごとの達成すべき目標が明確である。ただ、PDCAのCの部分にあたる前年度事業計画に対する事業報告書および今年度事業計画書が作成されておらず、課題が何だったのか不明なのが惜しまれる。次年度には重点課題とそれを達成する取り組みを明記した事業計画書と今年度の事業報告書の作成が期待される。
2	タイトル	業務継続計画(BCP)はパソコンのデータの損壊やサイバー攻撃等のリスク対策など机上の計画でなく実際に機能させることを期待する
	内容	災害などに遭遇した場合の業務継続計画(BCP)は区が策定したものに園が現状にあわせた対策を加筆して策定している。園ではパートごとにBCPを管理していて、職員会議でその趣旨を理解させ、より通常業務に近い保育ができるように役割分担をしている。職員調査でも無回答が多少多いが理解度は高い。ただ、BCPは自然災害に限らず通信の不可やPCのデータの損壊、サイバー攻撃などのリスクにも対策が必要な時代である。交通やライフラインなどの2次的影響の考慮で、机上の計画でなく実際に機能させることを期待する。
3	タイトル	園にあるマニュアルや手順書を把握しやすくすることや、会議の話し合いの経過や決定事項がわかる議事録の検討を期待したい
	内容	園を運営するにあたり、国のガイドラインや行政の保育園運営上必要なマニュアル、園独自のマニュアルや手順書などが存在し、園マニュアルの内容は保育をする上で必要な部分が収集され活用している。整備されている全てのマニュアルの一覧表を作るなどして職員に情報提供し活用できるようにすることが必要と思われる。また、運営上必要な会議が多数行われているが議事録で議題や決定内容などを把握することが難しく、今後PDCAのサイクルで記録を取るなどの検討をして議題や話し合いの経過、決定事項が整理され、次の課題がわかる記録を期待したい。